

LAW • SOCIAL JUSTICE

GLOBAL • COMMUNICATION

CULTURE



FU BUSINESS LAW PROGRAM

Since 2001 in Seattle and or Fukuoka

CLASS of 2022

Intensive

Spring

Course

2/20-28/2023

Local Seattle Scenes



Lovely flowers for sale in Seattle



Native American Mask
Tillicum Village, Blake Island



Ichiro Display Baseball
Stadium in Seattle



Seattle Waterfront

Contents 目次

2022-2023



Famous Pike Place Market, downtown
Seattle



Elliot Bookstore near Seattle University



Chihuly Garden and Glass Museum
Seattle

福岡大学経営法学科プログラム2022-2023

Fukuoka University BUSINESS LAW PROGRAM 2022-2023

目次 TABLE OF CONTENTS

Greetings

福岡大学 Fukuoka University

山下恭弘 法学部長 1

Yasuhiro Yamashita, Dean, Faculty of Law

ステファニー A. ウェストン 法学部(国際関係論)教授/海外プログラムコーディネーター 1

Stephanie A. Weston, International Relations Professor/Overseas Program Coordinator, Faculty of Law

講義概略および講師/講演者 2

2023年集中研修スケジュール

Course Profile & Directory of Lecturers/Presenters

2023 Intensive Course Schedule

①グループA 企業訪問報告(後期) 3

②集中講義特別講演報告(後期集中)

Group A Company Visit Report (Fall Semester 2022) Intensive Course Special Lecture Report (Spring 2023)

①グループB 企業訪問報告(後期) 5

②集中講義特別講演報告(後期集中)

Group B Company Visit Report (Fall Semester 2022) Intensive Course Special Lecture Report (Spring 2023)

①グループC 企業訪問報告(後期) 7

②集中講義特別講演報告(後期集中)

Group C Company Visit Report (Fall Semester 2022) Intensive Course Special Lecture Report (Spring 2023)

①グループD 企業訪問報告(後期) 9

②集中講義特別講演報告(後期集中)

Group D Company Visit Report (Fall Semester 2022) Intensive Course Special Lecture Report (Spring 2023)

シアトル/オーストラレーシア クラス リーダーズ挨拶 11

Seattle/Australasia Class Leaders Greetings

2019年度 卒業生挨拶 13

2019 Senior Greetings

終わりに 13

Closing Remarks

特別寄稿—長期海外留学 13

桑野千裕(2018シアトルクラスプレジデント)

園屋哉太(2018シアトルクラスグループDメンバー)

Special Report - Long Term Overseas Study

Chihiro Kuwano (2018 Seattle Class President)

Kanata Sonoya (2018 Seattle Class Group D member)

Front Cover Photos:

Main Photo-back row 2022 Seattle Class; front row 3 OBs from 2021 Seattle Class
(Both classes could not travel to Seattle.)

Upper left photo: 2022 Seattle Class enjoy *macha* during their visit to Yusentei on 2/23/23.



山下恭弘
福岡大学法学部
法学部長
Yasuhiro Yamashita
Dean, Faculty of Law

Greetings
学部長 挨拶

「国際コミュニケーション法政事情」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、今年度も昨年同様に、海外で行う予定のカリキュラムを中止せざるを得ませんでした。とはいえ、この科目を担当するウエストン教授の熱意・尽力により、海外ではなく日本国内で行われることになった実習が、通常の授業では経験することのないユニークな充実したものとなりました。その詳細がこの報告書に記されていますので、ご覧ください。

さて、「国際コミュニケーション海外研修」は、福岡大学法学部経営法学科の1年次科目として設置され、「国際コミュニケーション法政事情Ⅰ」（前期）、「国際コミュニケーション法政事情Ⅱ」（後期）という一連のプログラムの中で毎年実施されてきました。シアトルでの研修は、これまでに計22回を数えるに至っています。このプログラムに参加する学生は、前期に開講される「国際コミュニケーション法政事情Ⅰ」において、現地での企業、公的機関、公共機関を訪問調査するために準備作業を行うことになっています。この綿密な準備に基づいて海外研修が実施され、帰国後「国際コミュニケーション法政事情Ⅱ」の授業においてその研修成果をまとめ上げるはずでした。

そもそもこの海外研修は、学生諸君が文化の違いを会得し、国の内外での経験を結びつけ、グローバルなリーガルマインドを向上させ、さらには、今後の勉強への意欲を高めてもらうために企画されたものでしたが、中止せざるを得ませんでした。残念至極です。

過去の海外研修からは、この研修を受けたことで、在学中に鋭敏な国際感覚を身につけ、卒業後にこれを活かして様々な社会の場で活躍する先輩たちを数多く見かけます。多大な成果を上げている、こうした充実した研修が、長年にわたり続けられてきたのは、本学部の誇るべき成果といえますが、これは多くの方々のご協力があればこそこのことですし、とりわけウエストン教授が、米国外交官という輝かしい経歴も活かしつつ、粉骨砕身、この研修を指導してきたからに他なりません。この紙面をお借りして、あらためて感謝申し上げます。

今回の中止を乗り越えて、この海外研修がますます発展し続けますように祈念しながら、挨拶の最後の言葉とさせていただきます。



Opening slide from Fukuoka Legal Clinic Lawyer Michiya Kimura's presentation to 2022-2023 Seattle Class



Group A members lt. to rt. Riko Kumamoto and Miu Abiru during the session about students' political participation by Big Tree Co. President Nozomi Takayanagi (2022 Seattle Class President) during April of 2022.



On Oct. 3, 2022, SPRINK, CEO Mihwa Gen spoke to the 2022-2023 Seattle Class about personal development. The title of her presentation was, "Take a leap, the world awaits for you!"



2019 Class members-middle lt. to rt. Tera Someno and Kana Hamasaki with their homestay parents in Seattle



ステファニー A. ウェストン
福岡大学法学部（国際関係論）教授/
海外プログラムコーディネーター
Stephanie A. Weston
Professor, International Relations /
Overseas Program Coordinator
Faculty of Law

新型コロナウイルス感染症拡大のため、福岡大学経営法学科の2022年度国際コミュニケーション法政事情クラスは毎年夏に行われるプログラムでシアトルに行くことはできませんでした。その代わりに私は、2022年度の前期と後期に彼らが学んだ日米の法律/政策、社会正義、文化、グローバルコミュニケーションなどを強化するため集中講義を開きました。今年度のクラスの12人の学生を4グループに分けて、後期では福岡の地元の企業を訪問し、企業代表者とのインタビューを実施し、関連する資料や本を読み、後期にはそれぞれのグループのテーマである、①ソーシャルビジネスプロモーション：ボーダレス ジャパン—事例研究、②コロナ禍におけるビジネス改革：無印良品—事例研究、③コロナ禍における広島東洋カープ経営課題—事例研究、④コロナ禍における日産自動車九州株式会社今後の課題—事例研究、などに関してプレゼンテーション作成の指導をしました。

集中講義の構成は、キャンパス内外において実践的な研修経験を学生たちにもたらしました。そこにはまた、行政あるいは民間部門から6人の異なる外部講師も出席しました。学生たちはコースの最後に、オリジナルの海外研修プログラムを作成するため、最終プレゼンテーションを行いました。今年度の学生を含めると、現在375人の学生が「国際コミュニケーション法政事情」に参加しました。

（これまで19クラスは実際にシアトルに行きました。）来年度は再びシアトル大学で、現地の先生方と共に、2023年シアトル大学海外研修プログラムを遂行するため活動したいと願います。

Program Profile

法学部の目玉的カリキュラムである実践的研修プログラムは、2001年度米国ワシントン州立大学での海外研修を取入れて開催しました。2008年に同プログラムはシアトル大学に移行しました。この特別カリキュラムの六つの目的は、1)法及び政策決定に関する実践的経験を得る、2)法及び政策の社会への比較的影響に関して分析力を養う、3)第二次世界大戦の日系アメリカ人の社会正義の問題を理解する、4)国内および海外での企業事務所訪問から得た情報を基に口頭発表を行う、5)異文化間体験を通じ枠組みに捉われない考え方を習得する、6)授業や外部での研修またはホームステイなどを通じて自分の意見を英語で述べるようになる等です。

このカリキュラム(8単位)は三つの科目に別れています:「国際コミュニケーション・法政事情I」「国際コミュニケーション海外研修」「国際コミュニケーション・法政事情II」を開設しました。前期週2回「国際コミュニケーション・法政事情I」。2021年も新型コロナウイルス感染拡大が収まらず、当年度は夏に開催せず、初めて新集中国際研修として2022年2月に福岡で行いました。全体の履修過程を担当するステファニー・ウエストン教授(法学部国際関係論)以外は、地元の来賓講演者によって法政・文化をテーマにして発表がありました。

そこでは小人数でグローバルコミュニケーション力を高め、日米の法政事情及び文化をよりよく理解するために講師による英語でのレクチャーを聞き、英語でディスカッションをしながら、日米間の法律や社会正義、ビジネスの問題および異文化事情を中心として学習します。「国際コミュニケーション海外研修」は、これまで通りシアトル大学での講義や政府関連事務所、法律事務所などで説明を受けます。また、各グループのプロジェクトテーマに関する関連企業、非政府団体や自治体事務所を訪問しインタビューを行います。この現地でのインタビューの代わりに、「国際コミュニケーション・法政事情II」の期間にグループテーマに基づいてそれぞれのグループが福岡で企業/団体訪問を行いました。

Presenters/Lecturers

Yuichiro Ando

Business Section Chief
Ando Zouen Doboku
Kabushiki Kaisha

Motomu Fukudome

Guest Hall
Nissan Motor Kyushu Company

Mihwa Gen

CEO
Sprink Corporation

Miku Hino

Recruitment/Public Relations
Borderless Japan Corporation

Ayumi Hume

Administrative Assistant/Head of
Admissions & Communication
Fukuoka International School

Kyoichi Inoue

Guide
Shona no Machi

Michiya Kimura

Lawyer
Fukuoka University
Legal Clinic

Yasuhiro Kizuki

Tenjin Daimyo Store
Ryohin Keikaku Co.
Muji Corporation

Daiki Nagashima

Store Manager
Tenjin Daimyo Store
Ryohin Keikaku
Muji Corporation

Norikazu Oda

Section Chief
Personnel・Public Relations
Personnel Section
Nissan Motor Kyushu Company

Shouhei Ohori

Section Chief
Nissan Motor Kyushu Corporation

Strader Payton

U.S. Consul in Charge of Public Affairs
Director American Center

Robin Schneider

Head of School
Fukuoka International School

Nozomi Takayanagi

President
Big Tree Co.
2022 Seattle Class President

Seiji Tanaka

Rakusuien/Shofuen/Yusentei
General Park Director

Hiroaki Tsujita

President
Waofuru

Kametani Tsukasa

Personnel・Public Relations
General Affairs Section
Nissan Motor Kyushu Company

Stephanie Weston

Professor International Relations
Faculty of Law
Fukuoka University

Minako Watanabe

Head of Events
Tenjin Daimyo Store
Ryohin Keikaku Co.
Muji Corporation

Yoshiro Yamaguchi

Media Room Regional Room Head
Ticket Admissions Division
Hiroshima Toyo Carp

Kayo Yanagihara

Personnel・Public Relations
General Affairs Section
Nissan Motor Kyushu Company

2022 Intensive Course Schedule

福岡大学(法学部一経営法学科1年のみ)

令和4年度 国際コミュニケーション海外研修(後期集中)スケジュール

2023年2月20日-2月28日

曜日	月日	午前の研修	昼食	午後の研修
月	2/20	(2) 10:40-12:10 「アメリカの各地域の文化」- 動画とディスカッション(ウエストン教授指導) 教室: 1015	福大構内	(3) 13:00-14:30 相互理解対話(ウエストン教授指導で学生と討論を行う) 教室: 1015
火	2/21	(4) 10:40-12:10 公園(友泉亭)の学習と見学(指定発表者により歴史および文化について発表) 田中園長 10:15 現地(友泉亭)集合	友泉亭; 福大教室	(5) 14:00-15:30 プレゼンテーション準備I(ウエストン教授指導) 教室: 1015
水	2/22	(6) 10:40-12:10 福岡リーガルクリニック法律事務所が行う福岡大学内外における業務と今後の課題(同法律事務所弁護士による講義) 木村道他(弁護士) 教室: 1015	福大教室	(7) 13:00-14:30 相互理解対話II(ウエストン教授指導) 教室: 1015
木	2/23	祭日 (8) 福岡県外での日帰り研修 8:30 集合 8:45 福岡大学から出発 11:30-13:15 学習及び見学 昭和田野町、大分県	日帰り	14:20-16:20 湯布院にて昼食と散策
金	2/24	(9) 10:40-12:10 アメリカ領事・広報担当ストレイダー・ペイトン-経済安全保障 教室: 1015	福大教室; 福岡市役所か他のビジネス団体の会場	(10) 13:00-14:30 福岡インターナショナルスクール校長 シュナイダーロビン-相互理解と文化およびビジネスグループ 教室: 1015
土	2/25	(11) 10:40-12:10 アメリカ法制度についての動画視聴および小テスト 教室: 1015	福大教室	
日	2/26			
月	2/27	(12) 10:40-12:10 最終プレゼンテーション準備II(ウエストン教授指導) 教室: 1015	福大教室	(13) 13:00-14:30 最終プレゼンテーション準備III(ウエストン教授指導) 教室: 1015
火	2/28	(14) 10:40-12:10 最終プレゼンテーションI 教室: 1015	福大教室	(15) 13:00-14:30 最終プレゼンテーションII 教室: 1015



Group

Training Report 2022-2023

Group Members: Miu Abiru *, Riko Kumamoto, Atomu Saho

*Group Leader

グループメンバー：阿比留 未宇*、隈本 莉子、佐保 亜都夢

* グループリーダー

Group Topic: Social Business Promotion Borderless Corporation- A Case Study

グループテーマ：ソーシャルビジネスプロモーション：株式会社ボーダレス・ジャパン福岡オフィス事例研究

Company Visit Report (Fall Semester 2022)

みなさんはソーシャルビジネスにどのようなイメージがありますか？ソーシャルビジネスといわれてもピンとこない人が多いと思います。ソーシャルビジネスというのは、地域や社会が抱える課題を解決することを使命として、ビジネスの手法を用いてそれに取り組むものです。例えば「ワオフル株式会社」では、年々増加している不登校の子どもたちに学校以外でも安心できる居場所を与えるため、オンラインでオーダーメイド家庭教師サービスを行っています。今回は、そのソーシャルビジネスを通して社会問題の解決に貢献している会社である「株式会社ボーダレス・ジャパン福岡オフィス」を訪問し、ソーシャルビジネスや社会問題の捉え方および将来的な解決策などについて採用・広報担当である日野美玖様、「ワオフル株式会社」代表取締役社長の辻田寛明様にインタビューしました。

まずソーシャルビジネスとは、社会の不条理や欠陥から生じる、貧困、差別・偏見、環境問題などの社会問題の解決を目的とした事業のことです。ここで最初に分かったことは、ソーシャルビジネスをする上で大切なのがソーシャルインパクトであるということです。ソーシャルインパクトは日本語で『社会的貢献投資』と言いますが、教育や福祉などの社会的課題を解決するための事業に資金を投入し、利益を上げようとする投資行動の総称です。利益を上げながらも社会問題の解決になるのであれば、一石二鳥のように感じました。ここで問題解決する上で難しいのは、LGBTQに関する人々の意識であることが分かりました。人の意識は簡単に変えられるものではない為だと感じます。また、ビジネスにしやすい分野は、農作物が育ってから売れるまで利益が出ない農業よりも、人材紹介等の業種が、売上を早く計上できることも分かりました。

次に「株式会社ボーダレス・ジャパン福岡オフィス」が推進するソーシャルビジネスに話を進めます。ここでは組織を成長させるため様々な仕組みを作っており、その一つに、「恩送りのエコシステム」があることを知りました。また、企業の活動をさらに広めるため、「ボーダレスアカデミー」という社会起業家育成プログラムや、「ボーダレスシネマ」という社会問題を知るきっかけを提供するドキュメンタリー映画の上映会を行っていることも分かりました。

最後に将来的な解決策について考察します。それは個人や一集団で解決するのは難しいですが、それらが集まって解決に向けた運動を行うことで、ソーシャルインパクトが生まれ、解決の糸口となることがあります。社会問題と言われてもあまり身近に感じない人が多いかもしれませんが、実際の社会問題は自ら調査をすることもありますが、いま自身が直面する問題が他の多くの人も同じことを感じており、社会問題であることも多いです。実際に身近で起こっている不便を解決することが、社会問題の解決につながります。これを繰り返すことで100年後に誰もが住みやすい社会を作ることができると思います。インタビューを通して、これらのことをいかして起業家視点で社会問題を解決する一員となっていくと考えました。



Group A members Riko Kumamoto (far lt.) and Atomu Saho (far rt.) interviewed Borderless Japan Corporation Recruitment/Public Relations representative Miku Hino about their group topic.



Group A members Riko Kumamoto (far lt.) and Atomu Saho (far rt.) interviewed Waofuru President Hiroaki Tsujita at Borderless Japan Corporation in Fukuoka about their group topic.



Group A members Riko Kumamoto and Atomu Saho thanked Ms. Miku Hino and Mr. Hiroaki Tsujita for the interviews at Borderless Japan Corporation in Fukuoka.



At the end of the interview



President of Borderless Japan Corporation
Qualities.jp/article/borderless-japan



lt. to rt.
Borderless Group Magazine
borderless-japan-com/magazine63989

Group A

Training Report 2022-2023



Michiya Kimura, lawyer, spoke to the 2022-2023 Seattle Class during their intensive course held on 2/22/23 about the role of the Fukuoka Legal Clinic in the community.



Ditto.



Michiya Kimura, lawyer, at the end of class, with the 2022-2023 Class members on 2/22/23



Slide from Mr. Kimura's presentation



Mock Court Room at Fukuoka University Law School; Mr. Kimura is also a member of the teaching staff there.



Rakusuien/Shofuen/Yusentei General Park Director Seichi Tanaka spoke to the 2022-2023 Seattle Class about the historical and cultural aspects of Yusentei on 2/21/23.



Ando Zouen Doboku Kabushiki Gaisha Business Section Chief Yuichiro Ando spoke to students about Yusentei's design and guided students around the gardens on 2/21/23.

Intensive Course Report (February 2023) 集中研修報告 (2023年2月 後期集中)

Presenter : Michiya Kimura

講演者 : 木村道也教授

Lawyer

弁護士

Fukuoka Legal Clinic

福岡大学リーガルクリニック

Topic : About Fukuoka University Legal Clinic

テーマ : 福岡大学リーガルクリニックについて

Date : February 22, 2023

日 時 : 2023年2月22日

私はこの講義を受けるまでは身近でなかった弁護士の存在が、講義を聞いて身近に感じられるようになりました。過去に取り扱った事例等、答えにくい私たちの質問にも快く答えて下さりとても貴重な時間でした。その中でも心に残っていることが二つあります。

一つは、「モチベーションは何ですか」という質問に対して、「どんなに悪い人でも良いところがある」と思っている。どうにか刑が軽くならないか力を尽くしそれが叶ったときにはやりがいを感じる。」という答えが返ってきたことです。弁護士という仕事は正義感がないと絶対に務まらない仕事だと改めて感じました。

二つ目は、「日本には死刑制度があるが、それについてどう考えていますか」という質問に対して、「反対」とおっしゃっていたことです。「この仕事をしているとにかに冤罪が多いかがよく分かり、冤罪のまま死刑にされているケースも多いと思う。死刑にされるともう取り返しがつかないため、反対である。査否両論あると思うが自分は絶対に反対だ。」ということでした。私自身も死刑には反対で、私なりの意見があるけれど、木村先生は弁護士として、法律のプロとして、説得力のある貴重な意見を聞くことができ、興味深かったです。

今回の講義では、実際の弁護士にリアルなお話を聞くことができ、とても勉強になりました。これらのことを今後の生活に活かしていきたいです。

Presenter : ① Seiji Tanaka

講演者 : ① 田中 政治氏

Rakusuien/Shofuen/Yusentei

General Park Director

友泉亭公園 / 松風園

園長

安藤造園土木株式会社 指定管理者

Topic : Yusentei's History and Culture

テーマ : 友泉亭の歴史と文化

Presenter : ② Yuichiro Ando

講演者 : ② 安藤 由一郎氏

Ando Zouen Doboku Kabushiki Gaisha

Business Section Chief

安藤造園土木株式会社

営業部課長

Topic : Yusentei's Garden

テーマ : 友泉亭の庭園について

Date : February 21, 2023

日 時 : 2023年2月21日

今回、私たちは、日本の歴史や伝統的文化を学ぶために友泉亭公園へ行きました。園長の田中さん、安藤造園土木株式会社の安藤さんにお話を伺いました。そこで学んだことがたくさんあります。

まず、友泉亭は1754年、江戸時代中期に黒田家の別邸として造営され、友泉亭という地名は当時からだとのことです。また、現在の敷地は3,000坪ですが、当時は28,000坪あったということにはとても驚きました。

次に、日本庭園についてです。日本庭園は、自然を縮小して再現したものだということを初めて知りました。また、友泉亭公園は、日本庭園の四大要素である水、石、植栽、景観の中でも、植栽に特に力を入れています。現代の都会的な建物で景観を損ねないように、樹木を伸ばして隠す工夫をしているそうです。

福岡の中心部にこのような和風で素敵な場所があるとは全く知りませんでした。新緑の頃や、紅葉の頃も見頃とのことなので、また機会があれば訪れたいと思います。



Beautiful Yusentei Scene



Group photo with speakers at Yusentei



Strolling through Yusentei



At Yusentei



Group A members lt. to rt. Riko Kumamoto and Miu Abiru (Group Leader) delivered their final presentation of the Intensive Course.



Group A members lt. to rt. Miu Abiru (Group Leader) and Riko Kumamoto delivered their final presentation of the Intensive Course.



Group A members lt. to rt. Atomu Saho, Riko Kumamoto and Miu Abiru (Group leader) delivered their final presentation of the fall semester about their group topic -Social Business Promotion: Borderless Japan Corporation-A Case Study.

B Group

Training Report 2022-2023



Group B members at the Muji Tenjin store in Fukuoka interviewed representatives there about their group topic 「Business Reform in the Corona Era: Muji Tenjin-A Case Study」.



Ditto.



During the interview at Muji Tenjin with the Store Manager Mr. Nagashima, another staff member Mr. Yasuhiro Kizuki and Events Head Minako Watanabe (not pictured).



It. to rt. Group B members Ayane Fujii, Miku Uotani and Noa Tokunaga (Group Leader)

Group Members: Noa Tokunaga *, Ayane Fujii, Miku Uotani

*Group Leader

グループメンバー：徳永 叶愛*、藤井 彩寧、魚谷 美空

*グループリーダー

Group Topic: Business Reform in the Corona Era: Muji Tenjin-A Case Study

グループテーマ：コロナ禍におけるビジネス改革：無印良品—事例研究

Company Visit Report (Fall Semester 2022)

私たちが訪問した「無印良品」は、コロナ禍にもかかわらず過去最高売上を記録し、老若男女どの世代からも需要が拡大し続けており、今最も注目されている企業です。そんな無印良品は1980年に生産プロセスの合理化を徹底し、簡潔で気持ちのいい低価格商品を生み出すことを起点として誕生しました。現在、無印良品の店舗数は、全世界で1000を超え、商品アイテムは7000点を超えます。今回私たちのグループは、ビジネス経営と改革・新ビジネス・今後の課題という3つの視点で、無印良品天神大名店店長の永嶋大樹さん、木月康博さん、イベント担当の渡邊聖子さんをインタビューしました。

まずビジネス経営と改革について、無印良品は、世界的な取組であるSDGsを商品開発にも取り入れており、現在商品の包装はプラスチックから再生紙使用に変化しています。無印良品では持続可能な社会に向けて、脱プラスチックの取組を進めており、その結果サステナブル・ブランドとして良品計画は2年連続総合2位に選ばれました。また、店舗の売り上げ構造の確立出店を強めており、地方のスーパー隣接店舗で月坪効率の向上を目指すと共に、コロナ禍以降不振が続く都心での戦略を見直す動きが高まっています。現在無印良品は国内に497店舗ありますが、より収益性を高めるためにさらなる店舗増加に取り組んでいます。そして、無印良品は『役立つ』をテーマに消費者側のニーズに沿った商品展開を行いながら、今後の良品計画については、コロナ禍に限らず、日常や価値観の変化がある中で、生活の基本となり、地域にも役立つ、本当に必要な商品だけを手に取りやすい価格で提供することを掲げています。

次に新ビジネスについて、様々なマーケティングで顧客を絶やさない無印良品は新たなビジネスとして「ローカル無地」という各地域の特産品などその地にゆかりのあるものを無印良品のスタッフが選び、無印良品の商品として、新たに共同開発を行い、地域それぞれの特性を発信する「地域への土着化」の取組を始めています。またすでに拡大が進んでいるローソンでの販売など、「まちの保健室」といわれる他社との協業で健康領域に参入する事業を始め、無印良品を単なるお店ではなく、地域コミュニティの一部としてだれでも気軽に生活の中に無印良品を位置づけできるよう常に様々なビジネスを計画し、これからもビジネス改革は続いていくでしょう。

今後の課題として、人々の暮らしの些細なところから地球規模の未来までを考え、ESGのトップランナーを目指している無印良品は、「商品マーケティングの強化」を目指しています。そのため、500円以下の日用品・消耗品に焦点を当て、お客様に伝える「無印良品500」の拡大や、地域に対しては紙媒体で、若者向けにはSNSでの活用強化などを課題にしています。また、人材育成については、中心となって活躍できる人材が少ないという課題があり、通年採用や3年目店長プロジェクトなどの取組の中で、自発的に仕事をする人たちによって構成される組織づくりを目指しています。

最後に、無印良品は「公益人本主義経営」という経営方針の中で、企業の事業を通し、新しい価値を創造しながら環境や社会に貢献することを目指していることが分かりました。



福岡市の日本庭園



Yusentei Clear Folder



Group B members inside the Muji Tenjin Store



Group B delivered their final presentation during the intensive course on 2/27/23.

Group B

Training Report 2022-2023



Big Tree President Nozomi Takayanagi led a workshop with the 2022 Seattle Class about students' political participation.



Beautiful Cherry Blossoms



Lovely flowers in Kyushu

Intensive Course Report (February 2023) 集中研修報告 (2023年2月 後期集中)

Presenter : Mr. Kyoichi Inoue

講演者：井上 恭一氏

Guide

昭和の町案内人

Topic : Showa Town and Future Directions

テーマ：昭和の町と今後の方向性

Date : February 23, 2023

日 時：2023年2月23日

今回私たちは大分県豊後高田市にある昭和の町、新町通り商店街を訪問し、昭和の歴史や商人についてガイドの井上さんにお話を伺いながら町を案内してもらいました。まず、この商店街は江戸時代から明治、大正、昭和30年代にかけて栄えていました。その後時代に取り残されてしまった商店街の活気を蘇らせようと平成13年に開始したのがこの「昭和の町」の活動です。そして、ここには100年以上続くお店が13軒もあり、今も変わらず営業しています。

かつて、昭和の町には年間約40万人の観光客が国内外から訪れていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、観光客数が激減しました。それでもなお商店街が続く理由は古くから先祖の人たちが続けてきたお店の良さ、昭和の懐かしさを感じられる商店街の雰囲気や後世に引き継ぐため、歴代の人たちが存続のためにした貯蓄でひたすら耐え抜くことができたからだそうです。

また、最近では幅広い年齢層の人が年間を通して訪れていますが、中でも最近では若者がよく訪れ、リピーターの方も多くいるそうです。その理由は最近の若者はレトロを好む傾向があり、日常の「便利さ」が当たり前となった若者にとって、現代にはない「不完全さ」に魅力を感じているからです。そのため、昭和の町ではSNSでの情報発信に力を入れ幅広い年代の人に昭和の魅力に興味を持ってもらうきっかけを作っています。

今回この訪問を通し、私たちは昭和の時代ならではの工夫や発見があり、新鮮な経験になりました。今までの年代にもそれぞれに良さがあるため、衰退させていくのではなく、後世にその良さを残す場所を、年代問わずみんなで守り広げ続けることが大切だと感じました。



Vegetable stand at Pike Place Market, Seattle



2022 Seattle Class members with some 2019 Seattle members visit Showa no Machi in Bungo Takada town, Oita Prefecture. Showa no Machi is a retro commercial area from the Showa era.



Guided tour at Showa no Machi



1. Some of the students who joined the educational tour of Showa no Machi and then visited Yufuin, both in Oita Prefecture.
2. Retro bus still in use for tours around Showa no Machi
3. Kyoichi Inoue, the guide, explains about Showa no Machi to students on the tour. One of the stops on the tour was old type school classroom.
4. Kyoichi Inoue, the guide, explained about an old fashioned café with set lunches from the Showa Era still in business.
5. Professor Weston at the entrance of Showa no Machi
6. The guide in front of the still existing businesses in Showa no Machi
7. 2022 Seattle Class president Kouki Egami thanked the guide for his guided tour.
8. Students on the bus for our 2022 educational tour to Oita Prefecture: top left to right. 2019 Class members - Kana Hamasaki and Aki Matsuishi (Class President)
9. Representatives left to right. Akane Miura and an assistant from Neo Club who made the arrangements for the 2022-2023 Seattle Class to visit Showa no Machi and Yufuin.

C Group

Training Report 2022-2023

Group Members: Sora Yonemoto *, Manae Mizutami, Shun Hirao

*Group Leader

グループメンバー：米本 颯嵐*、水民 愛笑、平尾 駿

*グループリーダー

Group Topic: Management of Hiroshima Toyo Carp in the Corona Era

グループテーマ：コロナ禍における広島東洋カープの経営課題

Company Visit Report (Fall Semester 2022)

2020年、世界中で新型コロナウイルスが蔓延し、日本プロ野球界は、無観客での試合開催や開幕の延期など、前代未聞の規制がなされました。この影響を受けセ・リーグで活躍している広島東洋カープは、1975年から続いていた黒字経営から一転し赤字を背負うことになりました。12球団の中で最も球場来場者数が多いことで知られ、地域との結び付きの強い広島東洋カープは、この状況を打破するためにさまざまなアイデアを生み出しました。様々な業界が莫大な損失を被る状況下で、常にファンを第一に考えるカープの経営戦略について興味を湧いたため、私たちは、①コロナ禍前の経営の傾向、②コロナ禍中の経営状況、③コロナ禍後の経営戦略という3つの視点で、広島東洋カープ入場券部プロジェクト室メディア室地域担当室の山口恵弘様にインタビューしました。

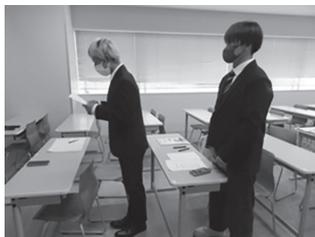
まずコロナ禍前の経営の傾向については、2019年、コロナ禍以前の来場者の売上の経営に占める割合（入場券収入+グッズ収入）は総売上169億の約半分を占めていました。しかし2020年新型コロナウイルス感染症の蔓延により来場者数も売上高もかなり減少しました。広島カープは来場者の売上を上げるための方法として毎年マツダスタジアムの改修を行っています。マツダスタジアムは作る際にアメリカに行って勉強して作られました。東京や大阪、福岡のように人口が多くないので飽きず繰り返し来て貰えるように座席の種類をたくさん用意しているそうです。また広島カープには“カープ女子”という女性カープファンの方々を表す言葉がありますが、広島カープは女性ファンだけでなく3世代4世代にわたって一緒に来てもらえる球場を目指しています。

次にコロナ禍の経営状況について聞きました。広島東洋カープは新型コロナウイルス感染症の蔓延によって落ちた経済状況を回復させるため色々な策を練りました。その中でまずプロ野球で利益を上げるためには観客数を増やさなければならないということで、なるべく早くチケットを売り出し、早めにお客様がチケットを買えるようにしました。そこでチケットを早く売り出す分、ロスが多く生まれることからそれを減らすため観客数を絞ってチケットを売るなどさまざまな策をとりました。球場への入場制限があり、売り上げを伸ばすのが困難な中でホームページのコンテンツを充実させたり、ファンを逃がさないためにファンとの距離感を近づめ、広島東洋カープとファンとの絆を深め、チームとして良いものを作ることを心がけていました。広島東洋カープは常にお客様のことを考え、完成しないスタジアムをモットーに常に1番の球場を目指しコロナ禍で落ちた経済状況を回復させていきました。

最後にコロナ禍後の経営戦略を聞きました。広島東洋カープは、2020年に約85億円まで落ち込んだ売上を、2021年には約116億円にまで押し上げたそうです。コロナ禍でもこれを達成できたのは、「広島という地で野球をし続ける」というカープの強い意志があったからです。日本では珍しいボールパーク構造をマツダスタジアムで実現させました。ただ野球を観戦するための場所にするのではなく、もっと気軽に立ち寄ることができるような、広島県民の拠り所となったのです。今季は規制も緩和され、コロナ禍以前の活気を取り戻しつつあります。赤字を立て直すためにはチケットを売り切ることが最も有効であることを思うと、昨年度よりも良い結果が得られることが期待できます。



Group C interviewed Hiroshima Toyo Carp Ticket Admissions Division-Media Room Regional Head Yoshihiro Yamaguchi about their topic - Management of Hiroshima Toyo Carp in the Corona Era.



Group C members lt. to rt. Sora Yonemoto (Group Leader) and Shun Hirao during the online interview with Mr. Yoshihiro Yamaguchi during the fall semester of 2022



Group C members lt. to rt. Sora Yonemoto (Group Leader), Shun Hirao and Manae Mizutami at the end of the online interview with Mr. Yoshihiro Yamaguchi



During the interview



C Group Leader Yonemoto thanked Mr. Yoshihiro Yamaguchi at the end of the online interview.



Group C during a class given by guest speaker/2002 OB/President of Big Tree Company Nozomi Takayanagi about students' political participation.



Group C made a short presentation during the interactive part of Ms. Takayanagi's class.

Group C

Training Report 2022-2023



<https://joyinhiroshima.com/todo/experience/mazda-zoom-zoom-stadium/>



Fukuoka International School Head Robin Schneider gave a presentation on "Working Across Cultures-How Does Culture Impact on Learning" for students during the Intensive Course held on 2/24/23.



Cruise Ship in Seattle



At Seattle University



Beautiful Cherry Blossoms

Intensive Course Report (February 2023) 集中研修報告 (2023年2月 後期集中)

Presenter : Mr. Robin Schneider
講演者：ロビン・シュナイダー氏

Head of Fukuoka International School
福岡インターナショナルスクール校長

Administrative Assistant/Head of Admissions & Communication: Ayuri Hume
アユリ・ヒューム氏：総務補佐 / アドミッション&コミュニケーション主任

Topic : Working Across Cultures-How Does Culture Impact Learning?
テーマ：異文化の中で働くとは - 文化背景はどのように学びに影響するか？

Date : February 24, 2023

日 時 : 2023年2月24日

今回福岡インターナショナルスクールの校長ロビン・シュナイダー先生の話聞いて、異文化についてさまざまなことを学びました。

まず最初に動画を見て、とても面白い動画で、それは異文化のことを考えさせる内容が詰まったものでした。最初自分は、なぜロバのお腹を触っただけで時間が分るのだろうかと考えましたが、そのお腹をずらすことで向こう側にある時計を見て時間が分かるというものでした。これは物の見方を表しているのだと思います。人や物事を見た目だけで判断すると、誤った結果になる恐れがあると感じさせられる動画でした。

アメリカと日本では考え方や価値観などが違うというのは分っていたつもりでしたが、この授業を通してそれぞれの国の特徴が示され、二つの国の価値観などの違いはそういうところにあるのかと分かりました。日本とアメリカはほとんど正反対にあると思われました。アメリカ人が長期的主義傾向が強いのに対して日本人は弱く、今のマスク着用に関しても海外では外しているのに、日本はまだ着用を徹底しているのもそのような考え方が反映されているなど感じました。

校長先生の「文化は目に見えていない物で成り立っている」という氷河を表した絵を例としていた説明も分かりやすく、なるほどと思いました。各国でプレゼンテーションスタイルが違うのも、自分の思うイメージと実際のものが似ていたため、面白かったです。このように今回の授業は、興味深いいろいろなことを勉強できたのでとても為になりました。



Fukuoka International School Head Robin Schneider delivers his presentation. FIS Administrative Assistant/Head of Admissions & Communication: Ayuri Hume assisted with translation.



FIS Head Robin Schneider at the end of the class with students and Professor Weston.



The 2022-2023 Seattle Class visited Showa no Machi in Bungo, Takada, Oita Prefecture as one of the class activities during the intensive course held in February of 2023.





Class President/Group D Leader Kouki Egami behind the wheel of a Nissan car on display at Nissan Motor Kyushu Company in Kanda, Fukuoka Prefecture

D Group

Training Report 2022-2023

Group Members: Kouki Egami **, Kanako Yoda, Shun Eguchi
**Class President/Group Leader
グループメンバー：江上 航輝 **, 与田 華奈子, 江口 舜
** クラスプレジデント / グループリーダー

Group Topic: Future Challenges for Nissan Motor Kyushu Company in the Corona Era
グループテーマ：コロナ禍における日産自動車九州株式会社の今後の課題

Company Visit Report (Fall Semester 2022)

2019年に初めて確認された新型コロナウイルス。このウイルスは次第に私たちの生活にも侵食し、私生活はもちろん、企業や学校などにも大きな影響を与えてきました。そして、自動車。こちらは言わずもがな私たちの生活を支える交通手段です。今回私たちは自動車産業が新型コロナウイルスによってどのような影響を受けているか、そして今後の課題について調べようと思い、日本でも有数の技術力をもつ日産自動車九州株式会社を訪問して、同社で人事・渉外部人事課課長の小田礼一さん、人事・渉外総務課課長の太田匠平さん、人事・渉外総務課の亀谷 司さん、人事・渉外部総務課の柳原香代さん、およびゲストホールの福留 求さんにインタビューし、工場を見学しました。ここで私たちはコロナ禍の1つの企業の実態の中で、①工場経営とコロナ禍、②サプライチェーン問題、③今後の課題など3項目に焦点を当てました。

まず、日産自動車九州株式会社が新型コロナウイルスによって受けた影響について伺いました。感染防止の為に人々が外出する機会が減ったことで自動車の需要が減るような悪い影響が出た一方で、承認の方法など従来のやり方を変えるきっかけになったと良い影響も教えてくださいました。日産自動車九州株式会社は沢山の下請け工場から部品を購入して自動車を製造しているので工場内の集団感染などで工場を止めてしまうと、最悪の場合下請け工場が倒産してしまう可能性もあり、手を洗う時間を新たに設けるなど感染防止に努めているそうです。

次にサプライチェーン問題について2つの観点から話します。1つ目は需要と供給問題です。今は需要に対して供給が間に合っていない状況だそうです。というのもコロナ禍前であれば受注から完成まで20日間程度だったのが、現在は8か月から9か月で完成するペースとなり、車検のタイミングで買い替えようと思っている客が多い中、完成まで長期間かかるのでは間に合わないという状況になっています。2つ目に部品の手配方法についてです。現在エンジンは横浜やいわきの工場で作って運び、半導体は海外から輸入しています。それでは運送するのに資源やお金がかかるため、近くに工場を建てることを考えているそうです。半導体は製造過程上近くで製造することは難しいかもしれませんが、日産自動車九州株式会社のある苅田町は水などの資源が潤沢にあるため、エンジンなどの部品製造工場を近くに建てるという話は近未来に実現するかもしれません。

ここでサプライチェーンと自動車産業について日産自動車九州株式会社の場合、製品の供給先などはコロナ禍前と比較し大きな変化はなく、2024年にはコロナ禍前と同程度の水準に戻せそうだと伺いました。結果として、コロナ禍が同社にもたらした負の影響は少ないとは言えませんが、順次回復傾向にあるそうです。

インタビューの最後に私たちは、同社第2工場の車体溶接工程と組立工程を見学しました。その工場はとても広くPayPayドーム34個分の広さがあり、専用の港もありました。特に溶接工程ではロボットが多いなと思いました。聞くと工場には1250台のロボットが稼働していて、溶接などの危険な工程は人ではなくロボットがしているそうです。また、人とロボットの行う作業は日々進化していて、例えば、シートのねじ締め作業は昔前はロボットがしていたそうですが、ロボットにさせるとどうしてもねじの締め具合が悪く結局人が締めなおしていたそうです。それを改善し、今シートのねじ締めは人の手によってされているそうです。

最後に今後の課題について聞きました。日産自動車九州株式会社はコロナ禍の最初のほうの時期こそ影響を受けて利益や生産量の低下を招いていました。しかし、前にも述べたように2024年ぐらいにはコロナ禍前に近い水準に戻れるというお話や、コロナ禍が従来のやり方を見直すきっかけになったなど悪い影響だけではなくあったという説明を受け、正直私はコロナ禍前の水準に思っていたより早く戻れることや、悪い影響だけでなく少なからず良い面もあったことにとても驚きました。ほかにコロナ禍ではあっても、一つの工場ですべてを完結させるということを検討したり、水の循環や電気の生産などのSDGsに目を向けたりしていることから、日産自動車九州株式会社はこれからも一層発展していくと思います。私個人の感想としてはコロナ禍に対してネガティブな感想だけではなく、コロナ禍だからこそというようなポジティブな取り組みをしているところにすごく好感を持ちました。



Nissan Motor Kyushu Company in Kanda, Fukuoka Prefecture



Group D members rt. side lt. to rt. Kanako Yoda and Kouki Egami (Group Leader) interviewed representatives at Nissan Motor Kyushu Co. in Kanda, Fukuoka Prefecture about their group topic- Future Challenges for Nissan Motor Kyushu Company in the Corona Era.



Nissan Motor Kyushu Company Guest Hall staff Motomu Fukudome explained to students about the assembly of cars at the Nissan Motor Kyushu Company plant.



Group D members with Nissan Motor Kyushu Company staff at the end of the interview about the group topic; After that, another staff member accompanied us to the assembly plant.



Nissan electric car at a charging station



The first car manufactured by the Nissan Motor Kyushu Company plant.



After visiting Nissan Motor Kyushu Company Group D members lt. to rt. Kanako Yoda and Kouki Egami at Kanda station before returning to Fukuoka



U.S. Consul in Charge of Public Affairs/Director of U.S. American Center Strader Payton spoke about the U.S. Consulate in Fukuoka's role as well as the Consulate's interest in economic security.



2022-2023 Class President Kouki Egami thanked U.S. Consul Strader Payton for his presentation.



U.S. Consul Strader Payton with students and Professor Stephanie Weston at the end of the class.

Group D

Training Report 2022-2023



Group D member Kanako Yoda at Nissan Motor Kyushu Company in one of Nissan's latest car models

Intensive Course Report (February 2023) 集中研修報告 (2023年2月 後期集中)

Presenter : Mr. Strader Payton

U.S. Consul in Charge of Public Affairs/ Director of U.S. American Center

講演者 : ストレイダー・ペイトン氏

在福岡米国領事館広報担当領事 / 福岡アメリカン・センター館長

Topic : The Role of the U.S. Consulate in Fukuoka and Economic Security

テーマ : 福岡におけるアメリカ領事の役割と経済安全保障

Date : February 24, 2023

日 時 : 2023年2月24日

経済安全保障について在福岡米国領事館広報担当領事ストレイダー・ペイトンさんのお話を聞いた。まずペイトン広報担当領事の半生について話があった。彼は11歳からテコンドーを習い始め日本に興味を持ち、高校2年生のときに奨学金をもらって日本に初めて旅行に来た。そのときの体験は目から鱗が落ちるようなものばかりで日本が大好きになったそうだ。

米国領事の目的は大きく分けて4つあり、①安全保障②経済発展③米国、米国人保護④人的交流だ。彼は文化広報部に所属されていて、仕事の種類は大きく分けて2つあり文化交流と情報発信で、災害対策や多様性についてのイベントを行ったり、SNS、メディアでアメリカと日本の情報などいろいろなことを発信しているそうだ。

今回ペイトン広報担当領事は、若いうちに海外に行き、いろんな経験をすべきだと強くおっしゃった。「井の中の蛙大海を知らず」ということわざがあるように、自分たちが知らないことは沢山あり、それを少しでも多く知ることが出来れば、将来の選択肢が広がりもっと豊かな生活が送れると思う。海外に行ってみることはその知らない世界を知ることができる一つの手段だと思う。積極的に海外に行き、いろんな経験をしたい。

SPECIAL ACTIVITIES



1. 2019 Class members during the 2022 Seattle Australasia Club Ohanami at Nishikouen Park It. to rt. 2019 Seattle Class President Aki Matsuiishi, Seattle Group A member Kana Hamasaki, Seattle Group C Leader /NZ 2021-2022 Class President Rena Nakashima
2. 2002 Seattle Class President/ President of Big Tree Co. Nozomi Takayanagi engaged students in group work during her session on students' political participation.
3. 2002 Seattle Class President/ President of Big Tree Co. Nozomi Takayanagi spoke to the 2022-2023 Seattle Class during the spring semester of 2022.
4. Group B delivered a short presentation during the interactive session with Ms. Takayanagi.
5. 2022-2023 Seattle Class with Mihwa Gen, President of Sprink after her presentation- "Take a leap, the world awaits for you!" during the fall semester of 2022.
6. Welcome party for the 2022-2023 Seattle Class at Tiempo Iberoamericano (Latin Cultural Center) in Tenjin. At the top of the table It. to rt. 2022-2023 NZ Class President Asuka Oka and 2022-2023 NZ Class Vice President Ryotaro Yamaguchi (2020 Seattle Class President)
7. One of the dishes served at the party - paella!
8. Group D delivered their final presentation during the spring semester of 2022. It. to rt. Shun Eguchi, Kouki Egami (Class President/Group Leader), Kanako Yoda Seattle 2022-2023 at the end of the spring semester in 2022.
9. Last day of the Spring Semester
10. Seattle and New Zealand Class Leaders at end of the year party with Professor Stephanie Weston in December of 2022
11. Ditto.
12. 2021 Seattle Class OB member Koya Tanaka started a long-term overseas program including English study and an internship in Queenstown, New Zealand in March of 2023. It. to rt. Guy Hughes, owner of Language Schools New Zealand and Koya Tanaka.

No Action, No Results

SEATTLE AUSTRALASIA LEADERS



Aki Matsuishi
松石 愛希

2019 Seattle Class President/Seattle Group A Leader/NZ Group E Leader

シアトル研修では法制度をはじめとする、歴史、企業、ホームステイ、文化など、本当にたくさんのことを学びました。机上では決して得ることのできないかけがえのない経験ができたのはウエストン先生のサポートをはじめ、国コミのみんなのおかげです。研修から3年たった今でも国コミの仲間と過ごした2週間の思い出は心に刻まれています。私にとってこの研修は大学生活の中の1つの目標であり、スタート地点でもあったので経験出来て本当に良かったと思っています。シアトル研修にとどまらず、チャンスをつかみ、常にチャレンジしていきたいと思っています。



Rena Nakashima
中嶋 玲奈

2021-2022 NZ Class President/Group A Leader; 2019 Seattle Group D Leader

私はこのプログラムを通して、挑戦することの大切さ、新しいことに触れる新鮮さを感じる貴重な経験をする事ができました。このプログラムに参加しなければできなかった経験・出会わなかった先生・友達と過ごせた時間は大学4年間の最大の思い出です。

今後も挑戦することを恐れず、何事にも興味を持ち、今を楽しんでいきたいと思っています。



Seiga Taniguchi
谷口 星雅

2021-2022 NZ Class Vice President/ Group F Leader; 2019 Seattle Group D member

こんばんわ!!

シアトルとニュージーランドに行った谷口星雅です。

2つの研修を通して海外がとても好きになり自分自身の視野が広がったと感じます!

また、ニュージーランド研修では副プレジとして多くのことが学べました。

絶対に参加したら楽しい思い出ができます!



Professor Weston with 2019 Seattle Class members during the 2022 Seattle Australasia Club Ohanami at Nishikouen Park.



Asuka Oka
岡 明日佳

2022-2023 NZ Class President/ Group E Leader

みなさん、こんにちは! 2022年代、オンライン『アジア法セミナーI』でプレジデントを務めた岡明日佳です。今回の研修では、実際にNZに行けず、オンラインでの研修となりました。オフラインでの開催であれば、NZの法政事情や文化、自然などに直接、触れることが可能でしたが、それは、今回は、実現できませんでした。しかし、『各グループ自ら、興味のあるトピックについて調べ、ウェリントン市と福岡市の比較を行い、発表する』というオンラインでしかできないコンテンツに取り組むことで、自分自身の知識を深め、大学生である私たちがこれからの社会にできることを考え、行動に移す準備をすることができたと考えます。

私は、小学生の時から核兵器廃絶のための平和活動を行っており、それと同時に、難民問題について興味がありました。高校生の頃に『高校生平和大使』としてスイスに行き、国連欧州本部やICRCを訪問し、職員の方と交流を行いました。まさか、こんな形で、NZのICRCのみなさんと交流をすることができるとは想像をしておらず、ますます、将来は、平和問題解決のために国際機関で貢献したいという自分の目標が明確になりました。『アジア法セミナーI』は、コロナ禍で自分が社会問題解決のために貢献するきっかけが見つかるプログラムです。ぜひ、みなさんもそのきっかけを見つけてみてください。



Ryotaro Yamaguchi
山口 遼太郎

2022-2023 NZ Class Vice President/Group B Leader; 2020 Seattle Class President/Group B Leader

皆さんこんにちは、2020年クラス会長の山口です。今年度も新型コロナウイルスの影響でシアトルに行くことが出来ないと聞き、大変残念に思っています。しかし、日本でも多くのことを学べますし、日本でないと学べないこともあるように感じます。思うようにいかないことも多々あるかと思いますが、出来る事を全力ですれば、きっと新しい物事に会えると思います。

これから皆さまがウエストン先生のもとで、多くのことを学べますよう、心から願っております。



Kodai Moriuchi
森内 滉大

2021 Seattle Class President/Group A Leader

みなさんこんにちは。2021年度会長の森内です。今年はコロナ禍で様々なことができずにつらい思いをした人も多いと思います。僕自身、対面授業がなくなりオンラインでの授業がほとんどとなり、なれないことばかりで不安を感じることが多いです。しかし、この時期だからこそ新しいことに挑戦するチャンスだと思います。できないことに悲観せず、できることを見つけていきましょう。新しいことに挑戦してたくさんの経験を積んで、これからの人生の糧にしてほしいと思います。応援しています。



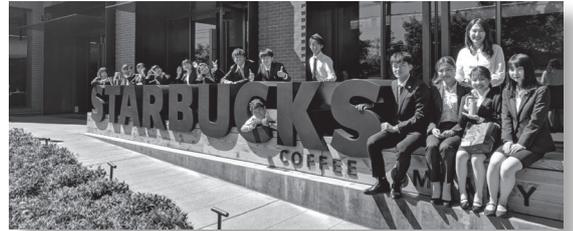
Kouki Egami
江上 航輝

2022 Seattle Class President/Group D Leader

皆さんこんにちは、2022年の国際コミュニケーション法政事情でプレジデントを務めさせて頂きました江上航輝です。私たちのクラスはコロナウイルスのため直接シアトルには行けませんでした、その代わりに先生が教室内でスターバックスの成り立ちや外部の企業への訪問など楽しくて飽きない授業をして頂きました。私は英語が苦手でしたがそんな私でも楽しく授業を受けることが出来ました。シアトルに行けなかったことは残念でしたが、2023年は行く予定だそうなので是非皆さん積極的に参加して仲間と良い思い出をつくってみたいはいかがでしょうか？



At the end of the Tabidachikai party-for 2019 Seattle Class-clockwise from middle - class members: Ryota Hiromitsu; Kenji Takarabe; Seiga Taniguchi; Kouhei Hashimoto and Masayuki Kunihiro



2019 Seattle Class at Starbucks headquarters in Seattle, Washington

2019 Seattle Class Seniors



Aika Sugiyama 杉山 愛香

私はシアトルで博物館を訪れて、日本とシアトルの博物館の違いについて調べました。英語が特別得意なわけではありませんでしたが、何事にも挑戦することで、毎日が新鮮でとても貴重な自分の財産になる経験ができました。この挑戦心を忘れずに将来生きていきたいです。



Kana Hamasaki 濱崎 香奈

私はシアトルの研修を通して、人の大切さと経営について学びました。スターバックスの本社に行った時、なぜスターバックスがあそこまで大きくなったのか、そのこだわりや社会に対する貢献を知りました。また、言語の壁があり、コミュニケーションを取るのが難しかったです。ですが、同じゼミのメンバーとどう話せば理解してもらえるのか、一緒に試行錯誤する事で絆が深まったと思います。



Tera Someno 染野 天来

こんにちは！シアトル研修に参加した染野天来と申します。

シアトル研修では、文化の違いを学び、様々な方々と関わる機会がありました。そして、国コミで出会った友達とは今でも仲良いです。海外や異文化交流に興味がある方は迷わず参加するべきです！



Kyoka Harada 原田 京佳

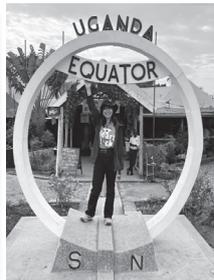
大学生生活で海外に行きたいという願いを叶えてくれたウエスタン先生とこのプログラムに心から感謝しています！シアトルで見た景色と国コミで出会った友人は私の宝物です！

普通の観光では行けない裁判所や、スターバックス本社訪問などたくさんの貴重な経験が出来ました。また、グループ訪問でのホームレス保護団体を通じて様々な社会問題に触れました。いつかそんな問題に対して力になりたいです。

そのためにも、まずは自分を大切に、心のできた余裕を他の人に向けられるような社会人を目指します。



At the end of Tabidachikai party for Seattle Class 2019 including other Seattle Australasia Club members and Tiempo Iberoamericano performers.



Kyoko Harada went to Kay-abwe-an equator town in Uganda as part of a study tour 12/22-30/22 throughout different parts of the country.



Mai Koito 小糸 真唯

私はこのプログラムを通して、ウエスタン先生をはじめ沢山のひとと出会い、大学生活の中で貴重な経験をする事ができました。自分の視野を広げ、柔軟な考え方ができるようになり、改めて勇気を出して参加して良かったと思います。

今後もウエスタン先生から学んだことを活かし、失敗を恐れず様々なことに興味を持ち、成長し続けたいと思います。



Mayu Watanabe 渡邊 真由

シアトルで企業訪問やプレゼンを通じて、自分の意見を持ち、伝える力を身につけられたと思います。この経験を活かし、社会に出てからも主体的にものごとに取り組みたいと思います。ありがとうございました！



Seattle Class members Mayu Watanabe and Aika Sugiyama on Graduation Day March 19, 2023.



Sumika Nakamura 中村 純歌

私は3年前の夏にシアトルに行きました。ホームステイをしながらシアトル大学に通い、企業訪問や裁判所、領事館に足を運び、アメリカの法律について日本と比較しながら英語を学びました。そこで得た事としては、第一に積極性の重要性についてです。自ら進んで発言、行動しなければならぬ場面が多く、拙いながらも積極的に英語で自分の意思を相手に示し、それが伝わった際の喜びは今でも忘れられません。

これからもシアトルで得た経験を活かし、社会人として積極的に行動したいと思います。



Ryota Hiromitsu 廣光 涼太

私がシアトルでの研修を通してしたことは、どんな小さなことでも1歩踏み出してみることでした。例えば、しょうもないことでも英語で質問や会話をしてみたり、行きたいお店を調べて交通機関を使って友達と2人だけで行動したりです。これらの小さなことを積み重ねることで、それが重要な将来の決断やチャレンジにも人より少しだけ早く動けたり、挑戦しようとする選択肢が増えました。今後もその姿勢で色々なことにチャレンジしていこうと思います。



Some of 2019 Seattle Class members on Graduation Day on March 19, 2023

Other 2019 Seattle Class Graduates

Tomoka Furukawa 古川 朋佳, Kouhei Hashimoto 橋本 康平, Kokoro Koutake 高武 ころ, Masayuki Kunihiro 國弘 雅之, Yuki Murayama 村山 由季, Sumika Nakamura 中村 純歌, Aoi Ohara 小原 碧衣 and Kenji Takarabe 財部 健司

終わりに

今年度のゼミ生はシアトルに行く機会を持っていませんでしたが、2023年2月に特別に構成された集中講義を受講することができました。福岡とシアトルで行われる福岡大学経営法学科プログラムの第23回クラスが2023年には実際シアトルに行けることを希望します。もちろんこれは、新型コロナウイルス感染症の進捗状況によります。

学生たちは4月から当カリキュラムを受け、その中でゲストを迎えてプレゼンテーションがありました。この場を借りて前期に政治参加について講演をしてくれた、株式会社ビッグトゥリー代表取締役高柳 希さん(2002年度シアトルクラスプレジデント)、そして後期に自己啓発について講演してくれた SPRINK (エスピーリンク) 株式会社社長元 美和さんに心から感謝申し上げます。

さらに2023年2月に開催した集中講義に寄与してくださった、友泉亭公園園長の田中政治氏、安藤造園土木株式会社営業部課長の安藤由一郎氏、福岡大学法科大学院教授で弁護士の木村道也氏、在福岡米国領事館広報担当領事/福岡アメリカン・センター館長のストレイダー・ペイトン氏、大分県豊後高田市昭和の町案内人の井上恭一氏、福岡インターナショナルスクール校長のロビン・シュナイダー氏、質疑の際力を貸してくださった総務補佐/アドミッション&コミュニケーション主任のアコリ・ヒューム氏など、来賓講演者の皆さまに心より感謝をお伝えします。

一年を通して学生たちは、法政事情・異文化問題・グローバルコミュニケーションなどの理解を深め、自らの限界を乗り越え最大の努力をしました。私は彼らが短期であれ長期であれさまざまな学習プログラムや機会を活用して、将来海外に行きたくて欲しいと願っています。

最後になりますが、2019年そして長期留学していた2018年のシアトルクラスのメンバー達、2023年3月、大学卒業おめでとうございます。皆さんの新社会人としての成功を祈り、また、今後のご活躍を楽しみにしています。

Special Report - Overseas Study

Chihiro Kuwano 桑野 千裕

Long Term Study Overseas (Ottawa, Canada)/2018 Seattle Class President/Group A Leader/NZ 2019-2020 Group Leader

私は、法学部経営法学科に設置されているプログラムを活用して、海外研修としてアメリカ・カナダ・ニュージーランドに訪問いたしました。その経験から、現地での生活を通して他にも多くのことを吸収したいと考えようになりました。研修に行った場所の中から、多民族国家であり、様々な価値観・国籍の人が生活し常に身の回りが新しいもので覆われているカナダに魅力を感じ、カナダに1年3ヶ月滞在いたしました。オタワ大学では、第二言語として英語を学ぶだけでなく、コミュニケーション学を学びました。現地の教授と海外の生徒に囲まれた授業では、日本人の私にはない観点からの着目に気付くなど、刺激的な日々でした。さらに、大学の授業だけでなく、新しい経験を求めて、主に3つのことに挑戦いたしました。

- ① 学内外でのボランティア活動
- ② 2ヶ月間、オタワ大学工学部研究所での研究助手としての仕事
- ③ 海外での一人旅

①では、ボランティアと思えないほどのハードワークなものもありましたが、ボランティアを通して現地でコミュニティ作りをすることに役立ちました。そのことをきっかけに人脈も広がりました。②留学前は、英語を使ってカナダで働くという考えは全くありませんでした。しかし、オタワ大学の1年間のプログラムを修了した後に、残りの時間を有意義に過ごせる方法はないかと思い、挑戦することを決めました。英語での環境という以前に、法学部に所属している私が、知識のない工学部の研究所で電圧研究をすることに、初めは抵抗がありました。しかし、やはり、どんな状況においても、人とのコミュニケーションを積極的にとることが、信頼関係を築く手段となり、円滑に仕事をこなす方法だと学びました。③休みを利用して、カナダやアメリカの多くの都市を訪れました。不可抗力のトラブルに巻き込まれることが、何度もありましたが、その度に自分の力で全て解決する必要があり、考えて行動する力がつきました。また、現地で友達を作ることも、旅の楽しみのうちであり、多くの新しい友達から、異なる文化や価値観を教わる機会を得ました。

カナダから日本に帰国する前、私の原点となった場所、大学1年生の夏に国際コミュニケーション法制事情のクラスで海外研修として訪れたシアトルのホストファミリーの家に2週間滞在しました。そのファミリーから、『4年前と比べて、英会話スキルが信じられないくらい上達した』と仰っていただき、カナダで行ってきた行動が自分の力となっていると感じた瞬間でした。人との関わり合いが自分を成長させてくれると感じた1年3ヶ月であり、どんな環境でも恐れず行動する力が身につきました。後輩の皆さんにも、身の回りにあるチャンスを自ら掴みにいくことを大切にしてほしいと思います。初めて挑戦するときは、不安な気持ちもあると思いますが、その先には、自分が想像していない世界が広がっています。

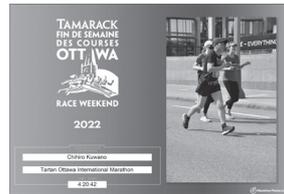
Kanata Sonoya 園屋 哉太

2021-2022 Long Term Overseas Study & Internship/2018 Seattle Class Group D member/

こんにちは。2018年シアトルメンバーの園屋哉太です。私は2021年9月から2022年の9月までアメリカ・シアトルのワシントン大学へ留学しました。ワシントン大学ではグローバル・ビジネス・サティフィケートというプログラムに参加し、主にマーケティングやプロジェクトマネジメントを専攻しました。プログラム終了後はOPTを活用し、現地企業で有給インターンシップに注力しました。OPTとは現地の大学でビジネスを専攻した後、最大1年間の就労ビザを取得して有給で働ける制度のことです。OPTでは現地法人企業でセールスアシスタントを経験しました。特に大変だったことは、働きながら業務内容を覚えるということでした。日系企業のようにOJTや研修がなかったため、能動的に上司に質問し、仕事を覚えることに努めました。多額の金額を扱う取引もあったため、顧客とコンタクトを取るときは、何でも確認作業を行い、ミスがないよう注意しました。また、インターンシップ先にはチリ人やベネズエラ人の南米出身者もあり、多様性に富んでいました。彼らとの交流を通して異なる価値観や考えに触れる機会も多くあり、自分の視野が広がったと思います。これらの貴重な経験を活かし、自分の夢が実現できるよう今後も努力していきたいです。



Chihiro Kuwano in Ottawa, Canada



Chihiro Kuwano participated in the Ottawa marathon.



Chihiro Kuwano part time job with the Engineering Dept., University of Ottawa



2018 Seattle Class President Chihiro Kuwano on Graduation Day on March 19, 2023 at Fukuoka University



Kanata Sonoya at the graduation ceremony after completing the Global Business Certificate program at University of Washington in the summer of 2022



Kanata Sonoya with his homestay mother at a baseball game



2022-2023 Seattle Class on the last day of the intensive course held February 20-28, 2023

Fukuoka University Business Law Program
Seattle Class 2022-2023

発行：令和5（2023）年3月31日

発行者：福岡大学法学部

編集者：山下恭弘、ステファニー A. ウェストン



*To be continued
in the Summer
of 2023*



<http://www.law.fukuoka-u.ac.jp/>